

2023年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年5月15日

上場会社名 株式会社メタプラネット
 コード番号 3350 URL <http://www.metaplanet.jp/home>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) サイモン・ゲロヴィッチ
 (氏名) 王生 貴久
 TEL 050-5835-0966

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績(2023年1月1日～2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	51	68.9	142		147		143	
2022年12月期第1四半期	166	43.8	399		107		1,383	38.6

(注) 包括利益 2023年12月期第1四半期 127百万円 (%) 2022年12月期第1四半期 1,144百万円 (27.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	1.59	
2022年12月期第1四半期	24.20	

前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失金額を計上しているため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	6,014	1,658	27.2
2022年12月期	5,357	617	11.4

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 1,634百万円 2022年12月期 612百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00		0.00	0.00
2023年12月期					
2023年12月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

2023年12月期の連結業績予想は、現在精査中であり、当該連結業績予想については、今後、取り纏まり次第速やかに開示いたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期1Q	114,692,187 株	2022年12月期	57,192,187 株
期末自己株式数	2023年12月期1Q	20,625 株	2022年12月期	20,095 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期1Q	90,394,032 株	2022年12月期1Q	57,174,869 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(会計方針の変更)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の中でも、各国における入国制限や日本国内における行動制限が緩和されるなど徐々に社会経済活動の正常化の動きが見られました。

しかしながら日本においては、昨年9月に上限が緩和され海外からの旅行客の受け入れ緩和を進めているものの、完全な自由往来にはまだ至っておらず、観光業界の本格的な回復は未だ兆しが見えておりません。当社グループにおいては、このような先の見通せない状況の中、コスト削減のため昨年より国内外のホテル運営を縮小するという厳しい判断をすることとなりました。

そのような状況下において、当社グループは売上高が前年同期比で68.9%減少するという結果に終わりました。また、売上高を上回る営業費用を計上したことにより、最終的に多額の営業損失を計上する結果となりました。

さらに、営業外収益として主に為替差益を、営業外費用として主に支払利息を、それぞれ計上し、特別利益として主に新株予約権戻入益を計上いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高51百万円（前年同期比68.9%減）、営業損失142百万円（前年同期は営業損失399百万円）、経常損失147百万円（前年同期は経常損失107百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失143百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1,383百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は6,014百万円となり、前連結会計年度末に比べ657百万円増加いたしました。

流動資産は892百万円となり、前連結会計年度に比べて381百万円増加しております。これは主に、現金及び預金が371百万円及びその他（流動資産）が12百万円それぞれ増加したためであります。

固定資産は5,122百万円となり、前連結会計年度に比べて275百万円増加しております。これは主に、有形固定資産が46百万円、無形固定資産が21百万円及び投資その他の資産が207百万円それぞれ増加したためであります。

負債合計は4,356百万円となり、前連結会計年度末に比べ383百万円減少しております。これは主に、流動負債が386百万円減少したためであります。

純資産合計につきましては、1,658百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,041百万円増加しております。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を143百万円計上した一方、2023年2月8日を払込期日とする第三者割当増資により、資本金及び資本準備金がそれぞれ575百万円増加したためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の連結業績予想については、現在精査中であるため、記載しておりません。当該連結業績予想については、算定ができました時点で速やかに開示する予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	207,260	579,226
売掛金	17,225	14,175
その他	292,271	305,030
貸倒引当金	△6,067	△6,067
流動資産合計	510,690	892,365
固定資産		
有形固定資産		
信託建物及び信託構築物(純額)	1,328,383	1,312,074
信託土地	1,198,686	1,198,686
建設仮勘定	1,910,956	1,977,557
その他(純額)	41,756	38,318
有形固定資産合計	4,479,782	4,526,636
無形固定資産	309	21,863
投資その他の資産		
投資その他の資産	806,587	1,013,819
貸倒引当金	△440,073	△440,073
投資その他の資産合計	366,514	573,746
固定資産合計	4,846,606	5,122,246
資産合計	5,357,296	6,014,611

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	501,887	—
1年内返済予定の長期借入金	2,096,132	2,089,720
その他	1,066,446	1,187,748
流動負債合計	3,664,466	3,277,468
固定負債		
長期借入金	1,068,499	1,072,477
その他	6,812	6,092
固定負債合計	1,075,311	1,078,569
負債合計	4,739,778	4,356,038
純資産の部		
株主資本		
資本金	0	575,000
資本剰余金	△3,087,667	△2,512,667
利益剰余金	3,891,251	3,747,892
自己株式	△139,414	△139,433
株主資本合計	664,170	1,670,791
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△51,284	△35,908
その他の包括利益累計額	△51,284	△35,908
新株予約権	4,632	23,690
純資産合計	617,518	1,658,572
負債純資産合計	5,357,296	6,014,611

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	166,635	51,877
売上原価	137,539	6,071
売上総利益	29,095	45,806
販売費及び一般管理費	428,807	188,132
営業損失(△)	△399,712	△142,325
営業外収益		
受取利息	272	1
為替差益	323,955	7,145
その他	1,167	3,062
営業外収益合計	325,395	10,210
営業外費用		
支払利息	32,926	15,368
営業外費用合計	32,926	15,368
経常損失(△)	△107,242	△147,483
特別利益		
固定資産売却益	94	—
リース解約益	2,293,881	—
新株予約権戻入益	2,820	4,632
特別利益合計	2,296,795	4,632
特別損失		
固定資産除却損	—	180
和解金	1,000	—
債務保証損失引当金繰入額	804,961	—
特別損失合計	805,961	180
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,383,591	△143,032
法人税等	240	327
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,383,350	△143,359
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,383,350	△143,359

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,383,350	△143,359
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△239,081	15,376
その他の包括利益合計	△239,081	15,376
四半期包括利益	1,144,269	△127,983
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,144,269	△127,983

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、過年度より継続して営業損失、経常損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。また当第1四半期連結累計期間においても、営業損失及び経常損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく下記のような対応策を講じ、当該状況の解消または改善に努めております。

① ホテル事業の見直しと新規事業の立ち上げ

当社グループは、現在における国内外の経済情勢全般、当社グループの主力事業であるホテルの開発及び運営が必要とする資金の多さ、そして世界で新たな事業機会を生み出している技術革新の速度やその広がり具合を各方面から検討し、現在の当社が置かれている事業環境を分析いたしました。その結果当社グループは、今後の株主価値の継続的かつ発展的な創出のためには、急速に進化する技術を取り入れて当社グループの保有資産及びビジネスモデルをデジタル化するとともに、新たな事業機会に挑戦することが必要であると判断しました。

具体的には、当社グループは以下の3つの事業に注力いたします。

・Web3及びメタバースの製品及びサービスの提供による成長を目指す事業

五反田のホテルを不動産開発の経験及びNFT関連事業を活かしてメタバースの拠点・会員クラブに再構築し、従来のホテル事業の資産から価値を創造するプロジェクトである「WEN Tokyo」、日本の芸術家及び職人が日本のアートと結びついたNFTを作成しNFTの取引及び各種イベントを通じて職人気質に基づくコミュニティを創設する「Takumi-X」、並びに容易にNFTを作成及び取引することのできるプラットフォームの開発・運営を予定しております。

・Web3及びメタバースにかかるプロジェクト向けの助言及びコンサルティング事業

ブロックチェーン及び非中央集権的技術に不慣れな海外及び日本の企業に対し、当社グループは、企業のWeb2からWeb3への移行、並びに、海外企業によるWeb3事業の日本導入及び日本企業による海外Web3事業進出を支援する専門家集団によるコンサルティングを提供します。

・Web3及びメタバースにかかるプロジェクト、企業及びデジタル資産への投資事業

定期的な収益またはキャピタルゲインの可能性をもたらす有望なWeb3及びメタバースにかかる企業及びプロジェクト並びにデジタル資産（NFT、トークン及び日本において取引可能な暗号通貨を含みます。）に投資し、長期的な収益獲得を見込みます。

ホテル事業については、すでにリース契約で運営していたホテル及び保有する札幌のホテルはすべて閉業し、フィリピンのホテルも売却を決定しており、五反田の物件のみを継続しております。

② 資本政策の促進

ホテル事業の見直しと新規事業により業績の改善を図りながら、増資や融資などを含む新たな資金調達の手段を検討してまいります。なお、2023年2月7日には臨時株主総会を開催し、第三者割当増資と新株予約権の発行により1,173,690千円を調達いたしました。

③ コスト削減

当社グループでは、ホテル事業の見直しに伴い、保有する五反田の物件を除き、すべてのホテルについて、不採算を理由に営業を終了しており、今後も引き続き、徹底的なコスト削減を図ります。

また、新規事業に伴い無駄な経費が増大しないよう、徹底的なコスト管理を実施いたします。

上記の施策を着実に実行することにより、当社グループの経営基盤の強化を図ってまいります。これらの施策は実施途上であり、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映していません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年2月8日付で、MMXXベンチャーズ・リミテッド、デビッド・スペンサー氏、シュモンク・リミテッド、サイモン・ゲロヴィッチ氏、マーク・ライネック氏、マシラス・デ・テザノス氏、パネフリ工業株式会社、ゲリット・ヴァン・ウインゲルデン氏、ピヤジット・ルカリヤボン氏、王生貴久氏、ニナ・ゲロヴィッチ氏、リン・コック氏、ハリス・ノルディン氏、阿部好見氏及び山口聡一氏より第三者割当増資による払込みを受けました。

この結果、当第1四半期連結累計期間において、資本金及び資本剰余金がそれぞれ575,000千円増加しました

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

当社グループは、「ホテル事業」の単一セグメントであるため、セグメントの記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他(注)1	合計	調整額(注)2,3	四半期連結財務諸表計上額
	ホテル事業	計				
売上高						
顧客との契約から生じる収益	51,877	51,877	—	51,877	—	51,877
外部顧客への売上高	51,877	51,877	—	51,877	—	51,877
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	51,877	51,877	—	51,877	—	51,877
セグメント損失(△)	△101,312	△101,312	△8,517	△109,830	△32,495	△142,325

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Web3及びメタバース関連事業等を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは従来、「ホテル事業」の単一セグメントとしていましたが、新たにWeb3及びメタバース関連事業を開始し、その領域が、今後重要性が高まることを踏まえ、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを「ホテル事業」、Web3及びメタバース関連事業等を「その他」に変更しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(無担保社債の発行)

当社は、EVO FUNDを引受人として、総額200,000千円の社債を発行することを、2023年4月12日の取締役会で決議し、2023年4月12日に払込が完了いたしました。

・第1回無担保社債（私募債）の内容

1. 社債の名称	株式会社メタプラネット第1回無担保社債
2. 社債総額	金200,000,000円
3. 各社債の金額	金5,000,000円の1種
4. 利率	年率1.0%
5. 払込期日	2023年4月12日
6. 償還期日	2025年4月11日
7. 償還方法	2025年4月11日（以下「償還期日」という。）に、その総額を本社債の金額100円につき金100円で償還する。
8. 担保の内容	無担保
9. 利払日	第1回2023年10月11日とし、その後毎年4月11日及び10月11日
10. 募集の方法	EVO FUNDに全額を割り当てる。
11. 社債管理者	社債は、会社法第702条但書及び会社法施行規則第169条の要件を満たすものであり、社債管理者は設置しない。
12. 元利金支払事務取扱場所 （元利金支払場所）	株式会社メタプラネット 東京都港区元麻布三丁目1番6号

(レッドプラネット札幌すすきの南の売却の件)

当社グループは、「レッドプラネット札幌すすきの南」の営業を2022年9月30日で終了いたしました。その後、同ホテルの売却を検討してまいりましたが、この度売却先等が決定し、2023年4月20日付けで売却致しました。

1. 売買契約締結の背景

これまでの主力事業であったホテルの所有・運営事業から、Web3.0やメタバース関連の新たな事業領域へ軸足を移行するべく準備をすすめております。同ホテルは今後も営業を再開させる予定はないため、すみやかに売却を進め、財務上の負担となっている銀行融資を返済するよう検討してまいりました。

この度、買主との間で売買について合意に至りましたので、売却を決定いたしました。

2. 売却先

守秘義務契約に基づき非公表

3. 売却価格（消費税等除く）

売買代金合計：金1,725,000,000円

4. 引渡の時期

2023年4月20日

5. 売買の形態

不動産信託受益権売買

6. 業績に与える影響

算定中であります。